その他（ 7 ）

第38期新潟県社会教育委員の会議「審議のまとめ」について

このことについて、別紙のとおり報告する。

令和８年10月23日
新潟県教育委員会教育長
太　田　勇　二

㊞

令和８年９月 15 日

新潟県教育委員会教育長
太　田　勇　二　　様

新潟県社会教育委員の会議
議　長　　山田　　智之

新潟県社会教育委員の会議の「審議のまとめ」について（報告）

新潟県社会教育委員の会議では、令和６年 10 月から令和８年９月まで、「人と人とのつながりによる学びの広がり～働く世代を対象とした大人の学び～」をテーマに審議を行ってきました。別冊のとおり、とりまとめましたので御報告します。

本報告が今後の社会教育の推進において、行政及び学校、関係機関、団体の活動において活用され、具体的な取組がより一層充実するよう期待申し上げます。

テーマ：人と人とのつながりによる学びの広がり　～働く世代を対象とした大人の学び～【概要】

課題

・人口減少・少子高齢化の進行に伴う、地域活動や社会教育活動の担い手不足と地域コミュニティの維持

テーマ設定の理由

・地域社会を支える 20 代から 40 代の働く世代に着目し、学びを通じて人や地域とつながり、地域活動へ参加するための方策を検討
・学びの成果を地域づくりや地域課題の解決につなげる仕組みづくりや、それを支える社会教育人材の養成・育成の在り方について検討

審議の視点と提言

柱		審議の視点	提言
1	生涯学習・社会教育の学びの環境づくり	・働く世代が学び続けられる学習環境とはどのようなものか。 ・働く世代が関心を持つ学習テーマとはどのようなものか。 ・効果的な情報発信の方法とはどのようなものか。 ・学習相談・支援体制とはどのようなものか。	○学びへの参加ハードルを下げる工夫 ○オンラインなどの参加形態や参加・離脱がしやすい柔軟な仕組みの工夫 ○仕事やキャリア形成につながる学習機会の充実 ○SNS やウェブ等を活用した多様な情報発信 ○学びを案内するナビゲート機能の充実 ○一人ひとりに合った学びにつなげる相談支援体制
2	社会教育人材の養成と育成	・学びと地域をつなぐ人材の育成とはどのようなものか。 ・地域人材の経験や専門性を生かす方法とはどのようなものか。 ・指導者の発掘・養成・活用の在り方とはどのようなものか。 ・デジタル活用を支える人材の育成とはどのようなものか。	○学習者に寄り添い、学びを地域活動へつなぐ人材の育成 ○人と人、人と地域を結び付けるコーディネート力の向上 ○地域人材がもつ経験や専門性を学びや地域活動に還元する仕組みづくり ○知識や技能を生かして地域で役割を担う機会の充実 ○学びの受け手から担い手への成長支援 ○企画・運営への参画機会の拡充 ○個別支援による学習参加の促進 ○デジタルと対面の特性を活用支援する人材の養成・育成
3	つながりをつくる仕組みづくり	・異分野・異世代の交流を生み出す仕組みとはどのようなものか。 ・学びを地域に還元するために必要なこととは何か。 ・地域資源を活用した学びの場とはどのようなものか。	○小さな関わりから始める交流機会 ○多様な立場の人が参加できる緩やかなつながりの形成 ○学びと地域活動の循環を生み出す仕組みづくり ○人の出会いや対話が生まれる場づくり ○学びや交流が生まれる場づくり

働く世代（20 代～40 代）の学びを地域の力へつなげるために

【取組】
○生涯学習・社会教育の学びの環境づくり
○社会教育人材の養成と育成
○つながりをつくる仕組みづくり

⇨

【生み出されるもの】
○人と人とのつながり
○学びと地域活動の循環
○継続的な参画

⇨

【めざす姿】
○担い手の確保
○地域コミュニティの活性化
○持続可能な地域づくり

人と人とのつながりによる学びの広がり
～働く世代を対象とした大人の学び～

審議のまとめ

令和８年９月

第 38 期　新潟県社会教育委員の会議

目　　次

はじめに ····· 1

Ⅰ　審議テーマについて ····· 2

1　審議テーマ

2　テーマ設定の理由

Ⅱ　新潟県の現状と審議の視点 ····· 3

1　新潟県の現状と課題

2　審議の視点

Ⅲ　視察・調査について ····· 6

1　神奈川県立図書館

2　特定非営利活動法人 シブヤ大学

3　つばめ若者会議

4　合同会社 三条ベース

5　一般社団法人 愛 南魚沼みらい塾

6　長岡市地域交流センターまちなかキャンパス長岡

Ⅳ　生涯学習に関する働く世代の意識調査·····17

1　意識調査の目的

2　回答者基本情報

3　調査結果

Ⅴ　提言 ･･･ 19

1　生涯学習・社会教育の学びの環境づくり

⑴ いつでも　だれでも　学べる場づくり

⑵ 多様な情報共有の手段

2　社会教育人材の養成と育成

⑴ 学びをコーディネートする人材の養成

⑵ 学びを支える人材の活用促進

⑶ デジタル活用を支える人材の育成

3　つながりをつくる仕組みづくり

⑴ 緩やかなコンソーシアムの形成

⑵ 既存の地域資源の利活用

資料 ･･ 26

1　第 38 期新潟県社会教育委員名簿

2　審議の経過

3　生涯学習に関する働く世代の意識調査

はじめに

第 38 期新潟県社会教育委員の会議では、令和 6 年 12 月から「人と人とのつながりによる学びの広がり～働く世代を対象とした大人の学び～」をテーマに審議を進め、このほど提言として取りまとめました。

近年、人口減少や少子高齢化の急速な進行、デジタル化・グローバル化の拡大、家庭環境の変化や地域のつながりの希薄化など、社会構造は大きな転換期を迎えています。こうした変化の中では、一度学校で身に付けた知識だけでは対応しきれず、誰もが生涯を通じて学び続けることの重要性がこれまで以上に高まっています。すべての人が豊かな人生を送るためには、社会に出た後も学びを深め、その成果を地域課題の解決や地域づくりに活かすことが期待されており、同時にその活動を支える人材の育成も求められています。

本会議では、こうした背景を共有した上で、「特に 20 代から 40 代の働く世代が学びを通じて元気になれば、地域社会そのものが活性化するのではないか」と考え、視察や意見交換を重ねながら、働く世代にとっての大人の学びの在り方について三つの視点から審議を行いました。限られた時間ではありましたが、委員一人ひとりの豊富な経験と知見を持ち寄り、現場の実情に根ざした提言としてまとめたものです。

県および市町村の教育委員会、生涯学習・社会教育を推進する関係部局の皆様には、本提言をお読みいただき、今後の生涯学習・社会教育の方向性を考える際の一つの参考として活用いただければ幸いです。新潟県内における生涯学習・社会教育の施策と事業が、さらに充実し発展していくことを期待します。

令和８年９月

Ⅰ　審議テーマについて

１　審議テーマ

人と人とのつながりによる学びの広がり
～働く世代を対象とした大人の学び～

２　テーマ設定の理由

人口減少や少子高齢化の進行に加え、デジタル化や価値観の多様化などにより、地域社会を取り巻く環境は大きく変化している。こうした中、地域コミュニティにおける人と人とのつながりや支え合いの重要性は一層高まっている一方で、地域活動の担い手不足や関係性の希薄化が課題となっている。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、オンラインによる学習や交流が急速に普及し、学びの機会は大きく広がった。しかしその一方で、人と人が直接出会い、対話し、学び合うことの価値についても改めて認識されるようになった。今後の地域づくりを進める上では、対面とオンラインそれぞれの特性を生かしながら、人と人とのつながりを育む学びの在り方について考えていく必要がある。

こうした状況の中で、20 代から 40 代の働く世代は、仕事や家庭、子育てなど多様な役割を担うとともに、地域社会を支える重要な世代である。しかし、働く世代を対象とした社会教育や生涯学習の在り方、また、学びを通じて地域との関わりを広げていくための環境や仕組みについては、十分に検討されているとは言い難い状況にあった。

そこで本会議では、働く世代が学びを通じて人や地域とつながるためにはどのような環境や機会が必要なのか、また、その学びを支える人材や仕組みはどうあるべきなのかについて検討することとし、本テーマを設定した。

Ⅱ　新潟県の現状と審議の視点

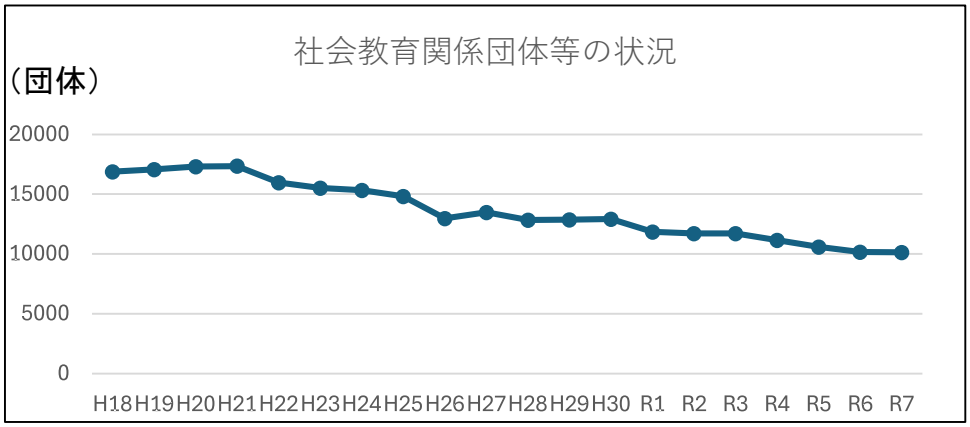
１　現状と課題

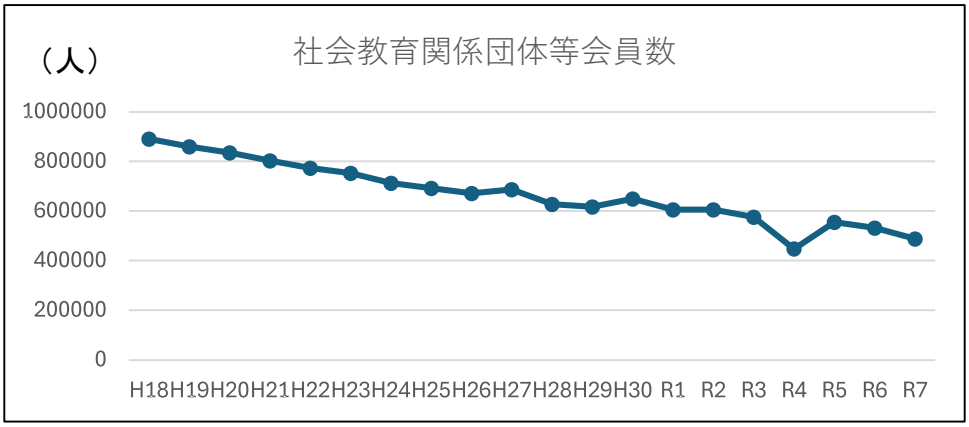
本県では人口減少と少子高齢化が急速に進行しており、総人口は 2020 年の約 220 万人から 2050 年には約 153 万人へと、30 年間で約 30.7％減少すると推計されている。こうした中、地域活動の担い手となる働く世代の減少に加え、社会教育団体においても会員数の減少や高齢化が進むなど、活動を支える基盤の弱まりが見られ、地域における交流や支え合いの機会が縮小することが懸念されている。

一方、県内で実施した「生涯学習に関する働く世代の意識調査」（令和８年）における 20 代から 40 代の働く世代の回答を見ると、57.5％が「学習に興味がある」と回答しており、学びに対する関心の高さがうかがえるものの、「この１年間に地域や社会でどのような活動に参加しましたか。」という質問に対して、「地域や社会での活動に参加していない」と回答した割合は 61.5％にのぼった。理由としては「きっかけがつかめない」（61.5％）、「仕事が忙しく時間がない」（53.8％）が多く挙げられている。これらのことから、学びへの関心はあるものの、それが地域活動への参加や具体的な行動に十分結び付いていない状況が見受けられる。

このような状況を踏まえると、地域コミュニティの持続性と活性化に向けては、働く世代が無理なく学びや地域と関わることができる環境を整えることが重要である。そのため、働く世代を対象とした学びの機会の充実や学習活動を支える人材の育成に加え、参加のきっかけづくりや人と人とのつながりを促す仕組みについて、総合的に検討していく必要がある。

○資料１：県内の社会教育関係団体数の推移と団体会員数の推移

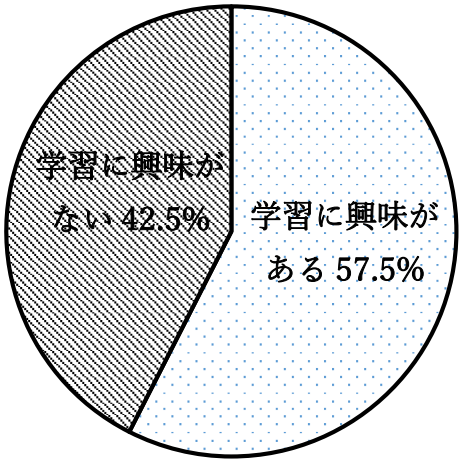




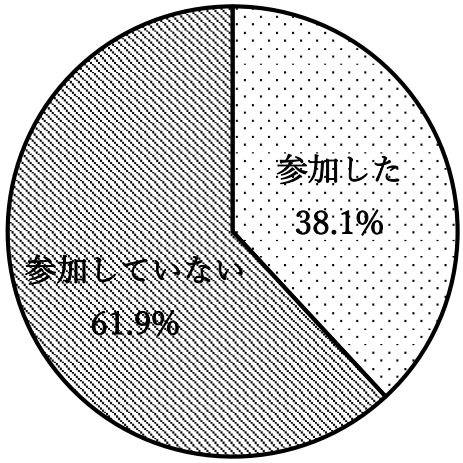
出典：「生涯学習・社会教育の現状」（県教育庁生涯学習推進課）

○資料２：20 代から 40 代の生涯学習に関する意識

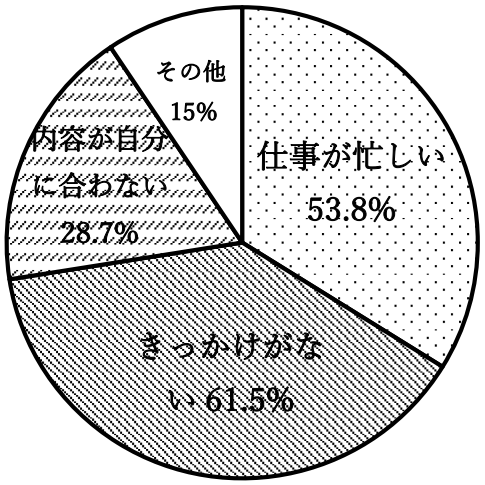
学習することに興味がありますか



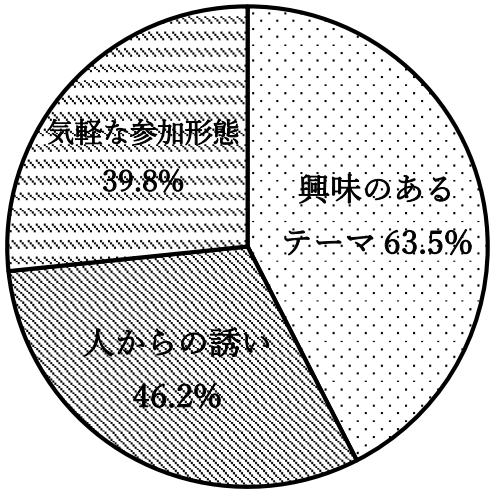
１年くらいの間に、学習や地域活動に参加しましたか



学習・地域活動に参加していない理由（複数回答）



学習・地域活動に参加するきっかけとなる要素（複数回答）



出典：「生涯学習に関する働く世代の意識調査」（県教育庁生涯学習推進課）

２　審議の視点

本県の現状と課題を踏まえ、審議では以下の視点から意見交換や視察を行い、考察を重ねた。

柱１　生涯学習・社会教育の学びの環境づくり

○ いつでも だれでも 学べる場づくり

20代から40代の働く世代が、自らの生活や仕事、家庭との両立の中で無理なく学び続けるためには、どのような学習機会や学びの環境が求められるのか。また、どのようなテーマに関心があるのか。

○ 多様な情報共有の手段

県民の生涯学習を促進するために、講座情報の広報の工夫や学習相談窓口の充実など、どのような方法が必要だと考えられるか。

柱２　社会教育人材の養成と育成

○ 学びをコーディネートする人材の養成

地域の学びや活動への参加を促し、人と人、人と地域をつなぐ役割を担う人材を、どのように養成・育成していくとよいのだろうか。

○ 学びを支える人材の活用促進

地域に存在する多様な人材の経験や専門性を、学びの場や地域活動の中でどのように生かしていくことができるだろうか。

また、多様な人々が関わり合いながら学びの内容や進め方を一緒に考え、つくっていくために、指導者の発掘・養成・活用をどのように進めていくことが求められるか。

○ デジタル活用を支える人材の育成

デジタル化が進む中、誰もが学びに参加できる環境を整えるためには、デジタル社会で適切に情報やICTを理解・活用するための能力（ICTリテラシー）の向上をどのように支援していくべきだろうか。

柱３　つながりをつくる仕組みづくり

○ 緩やかなつながりの形成

働く人々が、会社員、医療・福祉関係者、教育関係者、商業やサービス業に従事する人など、異なる分野で働く人々と地域を越えて出会い、新たなつながりや学びの広がりを生み出すにはどのようにしたらよいだろうか。また、このように異なる分野の人々同士の連携が進むことで、働く世代が社会教育に関心を持ち、地域に学びを還元するためには、どのようなことが必要と考えられるか。

○ 既存の地域資源の利活用

地域には公民館や図書館、交流拠点、商業施設のほか、あまり活用されていない場など、多様な地域資源が存在している。地域住民や働く世代がこれらの施設を無理なく関われる場として活用し、気軽に集まれる学びの場をつくるには、どのような仕組みが必要だろうか。

Ⅲ　視察・調査について（視察期間：令和７年１月～２月）

視察・調査の内容

本テーマでは、「人と人とのつながりによる学びの広がり」を通じた地域コミュニティの活性化を考察するため、働く世代を対象とした大人の学びの在り方に着目した。人口減少や少子高齢化の進行、価値観やライフスタイルの多様化が進む中、地域活動の担い手不足や人と人とのつながりの希薄化が課題となっている。地域の持続的な発展のためには、働く世代が学びを通じて人や地域とつながり、その成果を地域活動へ生かしていくことが期待される。

視察に当たっては、働く世代や若者が主体的に参画している取組、学びをきっかけに人と人とのつながりを生み出している取組、多様な主体が協働して学びや地域づくりを進めている取組に着目した。また、対面とオンライン

を組み合わせながら学びを広げている事例や、身近な地域資源を活用して交流や学びの場を創出している事例についても視察を行い、働く世代の学びと地域参加を促進するための方策について考察した。

1　神奈川県立図書館（神奈川県）


【Lib 活の様子】

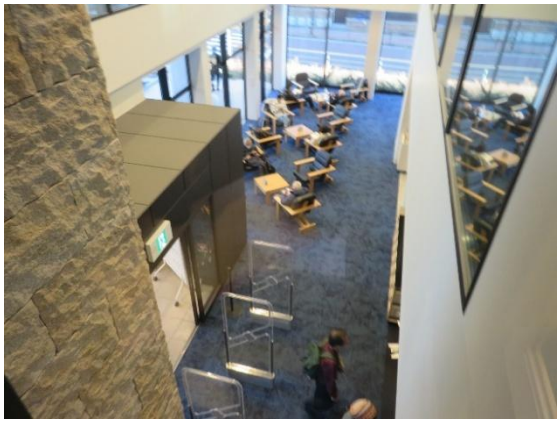
神奈川県立図書館は、老朽化した施設や収蔵スペース不足といった課題を解消し、専門性と広域性に加えて新たな魅力を備えた図書館として再整備が進められ、令和4年9月に新しい本館として開館した。従来の「専門的図書館」「広域的図書館」の機能に加え、「価値を創造する図書館」を中心的な役割として位置づけている。

そのコンセプトは「本を介して人と人が交流し、学びを深める図書館」であり、個人の読書や調査だけでなく、他者との議論や知識の共有、成果の発信へとつながる学びの循環を生み出すことを目指している。こうした学びの過程を支える仕組みを「交流の場」として整備し、さらに新たな成果を生み出す活動拠点を「創造の場」として位置づけることで、従来の「自習・貸出の場」から、「交流・創造の場」へと図書館のイメージを発展させる取り組みを進めている。

これらの機能を具現化するため、本館4階には資料を置かず、個人研究からグループ学習、ディスカッションまで多様な学びに対応できる「交流・創造の場」を整備した。会話可能な空間とし、可動式家具やホワイトボードを備えることで、利用者が主体的に学び合える環境を整えている。

神奈川県立図書館では、学びを深める仕掛けとして「Lib 活(リブカツ)」を立ち上げ、参加者が本を介して交流し、知識を広げる継続・能動型の学習プログラムを展開している。Lib 活は「after５ゼミ」「県民が編むかながわの半世紀」「本を選び、本を読み、本を朗読する講座」の３つのプログラムで構成され、テーマに関連する資料をもとに、感想や考えを共有し、さらに専門家の知見を踏まえて議論を深めることで、参加者同士のつながりの形成と学びの深化を促す仕組みである。

例えば、「after５ゼミ」では働く世代が社会課題を学び議論する場を提供し、話題提供者の体験談を基に参加者が自ら考えを深める形式を採用している。また、「県民が編むかながわの半世紀」では、調査と共同作業を通じて県の現代史をまとめ、成果の刊行を目指していた。さらに、「本を選び、本を読み、本を朗読する講座」では朗読技術を学び、修了後はボランティアとして朗読会を開催するなど、図書館での主体的な活動につなげていた。成果発表の場も設け、受講後には図書館で得たスキルを活かして活動できる機会も提供している。




【神奈川県立図書館　1階入り口付近の様子と展示の様子】

〈委員の所感〉

- after５ゼミ修了生が自主活動を始めるなど、図書館での学びが新たな価値を生む循環ができており、これを継続的に更新していくことが「価値を創造する図書館」のモデルになると感じた。
- これは子どもたちの学びにも通じるものであり、働く世代も仕掛けや環境、テーマ設定次第で主体的に楽しく学べると実感した。
- 人口規模や交通事情から、after5 のような形式は参加者確保が難しい可能性があると感じたが、朗読講座や歴史テーマは新潟でも実施しやすく、地元アナウンサーの協力などで展開できる余地がある。
- 対面とオンラインを組み合わせ、公民館など地域拠点から参加できる仕組みが有効と考えられる。
- 参加者にも運営の一部を担ってもらうことや、学びの成果を発表する場を行政が後押しすることが、継続性と満足度向上につながると感じた。

２　特定非営利活動法人 シブヤ大学（東京都渋谷区）

シブヤ大学は、平成 17 年に渋谷区の社会教育事業として始まり、現在は NPO 法人として「まち全体を学びの場にする」活動を展開している。開校以来 1,600 以上の講座を開講し、45,000 人以上が参加してきた。特別な技能習

得や研究を目的とするのではなく、誰もが無料で参加でき、学びのきっかけを得られる場として運営されている。授業は街中のさまざまな場所で行われ、参加者は学ぶ側にも教える側にもなりながら、多様なテーマに触れることができる。運営は事務局スタッフと 450 名を超えるボランティアが担い、「みんなでつくる学び場」という理念を体現している。

事業は、社会教育を専門とした当時の区長の提唱で始まり、初期は区役所内に事務局が置かれていた。その後 NPO 法人化し、現在も渋谷区からの委託を受けて社会教育会館で講座を実施しているため、会館使用料は不要で、区報による広報も行われている。参加者は 30～40 代が中心で、会社員が多く、ビジネス寄りのテーマも扱うなど、都市型の学びのスタイルが特徴となっている。

シブヤ大学は、単発講座に加え、6～7 回の連続講座「しぶやをつくるゼミ」など継続型の学びも展開しており、連続講座では 20～30 代の参加が多い。区の委託事業であるが、参加者は渋谷区民に限らず幅広く、テーマや講師に惹かれて参加した人が、居心地の良さから継続的に関わる点が特徴である。講座規模は 20～30 人程度が中心で、まちの多様な場所を活用しながら学びの場をつくっている。

実際の授業では、アイルランドの守護聖人を記念し、緑色をテーマに街を行進する伝統的な祭りである「セントパトリックデー・パレード」を題材にアイルランド文化を学ぶ講座が開催されるなど、身近なテーマを通じた学びが展開されていた。講師２名が対話形式で進める講義は親しみやすく、参加者から補足説明や意見が出るなど、まさに学び合いの場となっていた。さらに、講義中の話題をきっかけに上映会の企画が生まれるなど、学びが次の活動へと発展していく様子も見られた。

これらの活動は、「学びはもっとゆるくていい」「まじめなことも話したい」「同じ空間で誰かとともに学びあう」「みんなでつくる」「誰もが無料で参加できる」「町中が学びの場に変わる」という６つのキーワードを体現しており、参加者が新たな関心や行動を見つけるきっかけとなる学びを提供していた。

〈委員の所感〉

- 参加者が居心地の良さからリピーターとなり、やがて企画側に回る例が多く、授業中に「次はこうしよう」と自然に次の企画が生まれ、学びが自走していくこともある。
- 必要性よりも「何を学びたいか」を重視し、参加者の興味から授業を組み立てているため、講師同士・参加者同士の対話が活発で、学びの輪が広がる構造ができている。

・スタッフやボランティアが丁寧に企画をつくり、相談しながら進めるため、企画そのものが楽しい活動になっている。
・無料で謝金がないからこそ、「みんなでつくる」意識が高まっており、丁寧な企画づくりが行われ、質の高さにつながっている。
・参加者が“お客さん”のままにならず、小さな変化を促す仕掛けがある。多様な講師・テーマに興味を持つ人が集まり、人材同士がつながる場にもなっている。
・準備作業はマニュアル化され、スタッフ・ボランティアが効率よく運営できる体制が整っている。講座後にはスタッフの振り返り会があり、運営側の学びの場にもなっている。
・参加者満足度が高く、講座が次の企画へとつながる循環が生まれている。




【シブヤ大学の講座の様子】

３　つばめ若者会議（燕市）

つばめ若者会議は、燕市が平成 25 年に開始した若者のまちづくり参画を促す事業であり、「まちづくりの担い手育成」「若者同士のつながりづくり」「若者の活躍推進」を目的としている。対象は高校生から 40 歳までと幅広く、出身地域も問わない。初期は課題提示型の会議形式であったが、若者の主体的な活動を継続させるため、平成 28 年に 29 歳以下を対象とした「燕ジョイ活動部」、令和 2 年に高校生対象の「燕市役所まちあそび部」が発足し、プロジェクト型の取り組みへと発展した。

現在は、30 歳以上の「きっかけづくりチーム」、若者主体の「燕ジョイ活

動部」、行政が運営する「まちあそび部」の３つのコミュニティで構成されている。令和５年度の登録者は 113 名、累計では 261 名に達し、若者はアイデア出し・実行・情報発信を担い、行政は調整や資金面を支える役割分担で活動が進められている。これらの取り組みは高く評価され、令和４年度ふるさとづくり大賞、令和６年度地域づくり表彰を受賞するなど、地域に根ざした若者参画のモデルとして成果を上げている。





【まちあそび部の活動様子】

つばめ若者会議の実践では、高校生チームである「燕市役所まちあそび部」の活動が中心的役割を果たしている。月１回の集会で高校生が「やってみたいこと」を出し合い、市役所担当者が地域住民や事業者とつなぎ、翌月以降に実践する流れが確立している。視察した「もちつき体験」では、商店街の協力により臼や杵が準備され、高校生６名が初めてのもちつきを体験し、地域の大人との交流が自然に生まれていた。また、長岡高専アントレプレナー部とのオンライン交流では、互いのアイデアを紹介し合い、コラボ企画に発展するなど、学びと出会いが連鎖する様子が見られた。

これらの活動を支えているのが、市職員によるコーディネートであり、送迎・会場調整・地域との橋渡しを担うことで、高校生が安心して挑戦できる環境を整えている。また、もともと自分が関心を持っていたことに限らず、他者の「やりたいこと」に関わる中で新たな気づきや学びが生まれ、地域住民との新たなつながりが形成されている点も特徴である。こうした過程を重視する実践が、若者の主体性や地域への愛着を育む基盤となっている。

〈委員の所感〉

・きっかけづくりチームや燕ジョイ活動部が自主運営できているため、高校生のまちあそび部に行政が重点的に支援できる体制が整っている。学びのきっかけづくり、持続性、運営体制がよく設計されており、若者が継続的に関わりやすい仕組みが構築されている。
・若者の活動が地域住民に良い影響を与え、「若者に何かしてほしい」から「若者と一緒に挑戦したい」へと意識が変化している。
・高校生から段階的に活動に参加し、まちあそび部→燕ジョイ活動部→きっかけづくりチームへとつながっている。活動を通して地域を知り、地域を

支える大人の姿に触れることで、燕市への愛着や誇り、将来の地元貢献意欲が育まれている。

・「地域が学びのフィールド」「無いものは自分たちで創る」「偶発性を楽しむ」「学ぼうではなく遊ぼうと誘う」など、大人の学びにも応用可能なキーワードが得られた。

・民間企業の協働や地域の活力も相まって、学びと地域振興が相互に高め合う好循環が生まれている。

４　合同会社 三条ベース（三条市）

三条市にある「三条ベース」は、地域住民が集い、交流し、互いに支え合う新しい社会基盤をつくることを目的とした拠点である。金銭的な対価によらず、人や地域への思いやりを基に物やサービスを提供し合うギフトエコノミーや贈与経済の理念を取り入れ、物やサービスを無償で提供し合う文化を育みながら、地域の福祉課題や環境課題の解決を目指している。施設は多世代が日常的に利用し、年間延べ１万６千人が訪れる地域コミュニティの中心となっている。

１階は放課後の子どもの居場所として機能し、駄菓子屋やレトロゲーム、ボードゲームなどを備え、年間１万人の子どもが利用する。中学校区を越えて高校生までが訪れ、安心して過ごせる空間となっている。２階では物々交換所「ZUPPE（ズッペ）燕三条」を運営し、地域住民が持ち寄った衣類や雑貨などを無料で提供することで、家計負担の軽減とごみ減量化に貢献している。シニア世帯や子育て世帯の利用も多く、地域の交流拠点としても機能している。

また、三条ベースは障がい者の自立を支援する地域活動支援センターとしての役割も担う。不要品の仕分けや廃材を活用した作業などを障がい者が担い、その活動が工賃につながるなど、地域課題の解決と福祉支援が循環する仕組みが構築されている。さらに、引き取られない食器を使った観葉植物の販売や、企業からの廃材提供による薪づくりなど、地域資源を活かした新たな価値創出も行われている。

これらの取り組みは「課題相殺」という考え方に基づき、児童・高齢・障がい福祉の課題を、環境問題や空き家対策などの社会課題と結びつけて解決する仕組みとなっている。地域住民が日常的に参加できる「まちぐるみのまちづくり」を実現している点が特徴である。

さらに、新潟大学と連携し、地域共創を担う人材を育成する「日本互助育プログラム」を展開している。同プログラムは、相互支援の精神、包括的福

祉、環境保護、地域資源の活用を柱とし、地域課題の解決に取り組む社会起業家の育成を目的としている。




【三条ベース内の様子】

〈委員の所感〉

- 三条ベースの三つの機能（子どもの居場所・ZUPPE 燕三条・地域活動支援センター）が、子育て支援・家計負担軽減・自立支援といった福祉課題を、ごみ減量化やフードロス削減などの社会課題と結びつけて相殺する仕組みとして成立しており、非常に感銘を受けた。
- 特別なイベントではなく、日常の営みとして多世代が自然に交流している点が印象的で、地域の居場所として機能していると感じた。
- 三条という「ものづくりの街」の文化や、人口規模・学校配置などの地域特性がこの仕組みを支える背景にあると感じた。
- 社会課題を前向きに捉え、企業から個人までが課題相殺の枠組みに参加できる地域経済圏をつくるという理念に強く共感した。
- 貨幣に依存しない循環型の課題解決の仕組み（お金のやり取りに頼らず、地域の人同士ができることを持ち寄り支え合う仕組み）は興味深く、自分自身も地域課題の解決に関わる一員になれるのではないかという前向きな感覚を抱いた。
- 人口減少が進む中で、地域課題を自分事として捉え、主体的に行動する住民を育てることが重要であり、社会教育はそのための学びの場や情報提供を積極的に担う必要があると感じた。
- 三条ベースの取組は、社会教育が目指す「地域住民のつながりを深め、学びを地域課題の解決につなげる」実践例であり、社会教育の役割を再認識する機会となった。
- 来館者が自然に課題解決の仕組みの中に入り込むよう設計されており、環境問題や福祉課題を楽しく・継続的に解消する仕組みとしてよく考えられていると感じた。

５　一般社団法人 愛 南魚沼みらい塾（南魚沼市）

一般社団法人「愛 南魚沼みらい塾」は、平成29年に設立され、多様な経歴をもつ6名の理事が中心となって地域教育や子育て支援、まちづくりなど幅広い事業を展開している。大学のない地域において、若者が社会と出会い、自らの興味を深めながら成長できる機会をつくることを目的に活動している点が特徴である。

主な事業には、中高生向けの起業家教育「YouKey（ユーキー）プロジェクト」、都市部の学生が地域に滞在し働く「ふるさとワーキングホリデー」、小学生向けの「YouKeyジュニア」、首都圏大学の地域実習受け入れ、保育園留学などがある。これらは、古民家を改装した交流拠点「兼続庵」や、六日町駅併設のコワーキングスペース「MUSUBI-BA(ムスビバ)」を拠点に実施されている。

YouKeyプロジェクトでは、大学生が次の世代を支援し助言するメンターとして中高生の小グループに伴走し、興味関心をもとに地域でのフィールドワークや企画づくりを支援する。参加者は毎年30名程度で、令和5年度からは南魚沼市も主催として関わっている。ふるさとワーキングホリデーでは、学生が地域企業での就労体験や民宿生活を通じて地域と関わり、延べ160名以上が参加している。大学の地域実習では、大学と地域のニーズをつなぎ、学生が地域の価値や産業を学ぶ機会を提供している。さらに、大学生向けの起業家教育「YouKeyカレッジ」では、起業家精神の育成や地域定住への意識醸成も図っている。

これらの事業は、参加者が次の世代のメンターとなり、プロジェクトを支える側に回る循環が生まれている点が特徴である。また、観光ではなく「教育」を軸に移住や関係人口の創出を図っている点も興味深い。地域に急激な変化を求めるのではなく、若者との継続的な関わりを通じて地域の力を維持・向上させている。

さらに、地域においては、青年会議所やライオンズクラブ、地域企業との連携により、若者を育てる体制づくりが進められている。例えば、平成30年に設立された「雪国未来の人財創出コンソーシアム」は、市内高校や小中学校と地域団体をつなぎ、職場体験やインターンシップの受け入れを支援するなど、地元就職やUターン促進にもつながっていると考えられる。

このように、「愛 南魚沼みらい塾」の取組に加え、地域全体で若者の成長を支える仕組みが構築されている点が特徴である。こうした一連の取組は、若者が自分らしく社会に参加し、地域に還流していく仕組みを形成

するものであり、持続可能な地域づくりに向けた実践として高い意義をもつ。



【プログラム検討の様子】

〈委員の所感〉

- 大学生が主体的に関わり活躍している点に驚き、地域の大人や異年代との交流を通じた人材育成・還流づくりの仕組みが高く評価できる。
- 学生が「自分のやりたいことを見つける」ことを主目的とした取組であり、地域活性化や移住促進にもつながっているほか、地元の子どもたちとの交流による相乗効果も感じられた。
- 参加者がメンターや活動全体の企画・運営を担うディレクターへと成長する循環が生まれており、教育を軸に関係人口を育てる独自の地域づくりが興味深い。
- 社会人を対象とする場合は、目的や目指す姿を明確にし、みらい塾とは異なる内容が必要になる可能性があると感じた。
- 地域企業や青年会議所、ライオンズクラブなど多様な主体が拠点運営を支え、「拠点の存在」が活動の基盤として極めて重要であると実感した。
- 多様な学びのきっかけが用意されている一方、参加者の裾野を広げる工夫が課題であり、地域内外での学びを循環させ、長期的に地域へ還元する視点が必要だと感じた。
- 地域による壮大なキャリア教育として機能しており、学校では難しいレベルの活動が地域と連携して実現している点が印象的で、自身の周囲の学生にも参加を勧めたいと思うほど魅力を感じた。

６　長岡市地域交流センターまちなかキャンパス長岡（長岡市）

まちなかキャンパス長岡は、長岡駅前に位置する「学び」と「交流」の拠点として平成 23 年に開設された。平成 18 年策定の都市再生整備計画

と、３大学１高専との包括連携協定を背景に検討が進められ、大学・高専・市民・市が共同で運営する全国的にも特徴的な施設である。

主な事業には講座の開催と施設貸出があり、まず講座事業では、毎年約80講座・130コマを実施している。大学や高専の専門性を活かした内容に加え、生活・文化・ビジネスなど幅広いテーマを扱い、一般向けと子ども向けに分けて展開している。小学生向けには科学や芸術、企業見学などを通じて地域の仕事や技術に触れる機会を提供しており、平均受講率は95%以上と高く、市民の学習ニーズに応えていることがうかがえる。

一方、施設貸出事業では、講義室やダンス室など９室を整備し、市民や団体の多様な活動に活用されている。令和５年度の施設稼働率は70%を超え、特に高校生の利用が多いダンス室の稼働率は約80%に達するなど、高い利用状況となっている。講座の実施と施設利用の双方を通じて、世代間・地域間の交流が生まれ、中心市街地の回遊促進にもつながっている。

講座は「まちなかカフェ」「まちなか大学」「まちなか大学院」「こども講座」など多様で、単発講座から連続講座、主体的な研究型講座まで幅広い。市民が講師に挑戦する「市民プロデュース講座」や、ボランティア企画講座、企業・団体との連携講座など、市民参加型の仕組みも充実している。

運営は「まちなかキャンパス長岡運営協議会」が担い、大学・高専の教員や学生、市民、市職員が参画して企画・運営を行う。高等教育機関が身近な存在となり、大学側にも地域連携のメリットがある点が特徴である。また、学びをきっかけに地域課題への関心を高め、多様な主体が関わりながら柔軟に企画が展開されている点も特色である。

今後は、令和８年度に全館オープン予定の「ミライエ長岡」への移転を予定しており、より多くの市民が訪れる開かれた空間で講座を展開することで、認知度向上と人材育成事業のさらなる充実を目指している。

〈委員の所感〉

- 大学・高専・市民・市が共同で企画・運営する協議会方式が確立しており、行政主導ではなく多様な主体が当事者として関わる仕組みが特徴的である。
- 講座は毎年150～200件程度の企画案の中から約80講座が選定されており、多くの候補から精選することで内容の充実が図られている。さらに、大学・高専・企業・市民など多様な主体が企画に関わることで、内容の固定化を防ぎ、幅広く魅力的な講座が展開されている。
- 受講者は60代と小学生が中心で、若者・子育て世代の参加拡大が課題であり、オンライン化など環境整備が検討されている。

・ 「まちなかカフェ→まちなか大学→まちなか大学院」という段階的な学びの仕組みが整備され、目的やレベルに応じて参加できる点が優れている。
・ 無料ではなく参加費を設定することで、学びへの意欲が高まり、若者自身が企画する講座（例：自炊講座）が成功するなど、当事者参加の重要性が示されている。
・ 館内のデザインやコンセプトが明確で親しみやすく、開かれた雰囲気が多様な参加者を呼び込む要因となっている。
・ 中央公民館との役割分担は明確だが、今後はミライエ長岡との機能統合・役割整理が進む予定であり、時代に応じた「学びと交流の場」づくりが継続されている。
・ 小学生から社会人まで切れ目なく学びをつなぐことが重要であり、若い世代へのアプローチの難しさを踏まえつつ、地域全体で学びの循環をつくる姿勢が評価できる。

Ⅳ　生涯学習に関する働く世代の意識調査

県内全域の地域住民を対象に、働く世代の生涯学習に関する意識調査を実施した。（調査期間：令和８年３月３日～３月 17 日）

１　意識調査の目的

働く世代の生涯学習に関する意識や活動状況などを把握し、今後の事業や活動の推進方策について考察する資料とし、提言に生かすこととする。

２　回答者基本情報

県内在住の働く世代（18 歳～64 歳）を対象に、各市町村の人口比率等を考慮し、400 名を抽出してインターネット調査を行った。

３　調査結果

資料 28 ページ「３生涯学習に関する働く世代の意識調査」参照

４　20 代から 40 代の調査結果から読み取れること

柱１　生涯学習・社会教育の学びの環境づくり

＜問 1、問 2、問 4、問 7 から考察＞

学習に「興味がある」とする割合は、全体 58.0％に対し、20 代～40 代は 57.5％とわずかに上回っており、働く世代においても学習への関心が一定程度あることがうかがえる（問 1）。

また、学習内容については、「仕事に必要な知識・技能や資格」と回答した割合が、全体 49.6%に対し 20 代～40 代では 53.1%と上回っており、働く世代は学びを仕事やキャリア形成と結びつけて捉える傾向が相対的に強い（問 2）。

一方で、学習成果を生かせていない理由として「知識や技術が十分身に付いていない」とする割合は、全体 81.8%、20 代～40 代でも 77.8%といずれも高い水準にある。以上のことから、学びが実生活や地域活動に十分生かせていない状況がうかがえる（問 4）。

学習方法では、「インターネット（無料）」の利用は全体 63.2%に対し 20 代～40 代では 60.1%とやや低いが、大きな差は見られない。（問 7）

柱２　社会教育人材の養成と育成

＜問 16、問 17、問 18 から考察＞

「社会教育士」について「知らなかった」とする割合は、全体 87.5%、20 代～40 代では 85.8%とほぼ同程度であり、年代を問わず認知度が低い状況にある（問 16）。

また、認知経路を見ると、20 代～40 代では「広報紙やチラシ」が 37.5%で全体 28.0%と大きな差があり、「友人・知人からの情報」は全体 22.0%に対し、20 代～40 代では 15.6%と低く、身近な人を通じて社会教育士の存在や活動が伝わりにくい状況がうかがえる（問 17）。

一方で、「社会教育士と一緒に解決したい課題」として「地域コミュニティの活性化」を挙げた割合は、全体 39.0%に対し、20 代～40 代では 39.4%と大きな差はなく、具体的な名称や制度は知られていなくても、地域の課題解決を支える人材へのニーズは高いと考えられる（問 18）。

このことから、今後は制度の周知に加え、社会教育人材が地域でどのような活動を行い、どのような役割を果たしているのかを具体的に示し、身近な存在として理解してもらう取組が重要である。また、社会教育人材には、地域課題の解決に主体的に関わる人材を育て、社会の一員としての参画を促していく役割も期待される。

柱３　つながりをつくる仕組みづくり

＜問 10、問 12、問 13、問 14 から考察＞

地域活動への参加状況を見ると、「地域や社会での活動に参加していない」とする割合は、全体 59.5%に対し 20 代～40 代では 61.9%とやや上回っており、働く世代において地域参加が進んでいない状況が見て取れる（問 10）。

一方で、地域活動に参加するために必要な要素として「きっかけづくり」を挙げた割合は、全体 57.8%、20 代～40 代 57.5%とほぼ同程度であり、参加する機会や関わり始めるための仕組みが不足していることが課題と考えられる（問 14）。

また、交流しやすい場所としては、「公共施設内」は全体 49.0%、20 代～40 代 49.1%と同程度であるが、「商業施設内」は全体 34.5%に対し 20 代～40 代では 38.1%と全体をやや上回っており、日常的に利用する場所での交流を求める傾向が見られる（問 12）。

さらに、交流しやすいと考える理由として「立ち寄りやすい雰囲気」は全体 55.3%、20 代～40 代 51.3%と大きな差は見られなかった。一方で、「どこにでもある」とする回答は 20 代～40 代で 30.3%と一定数見られ、特別な場所であることよりも、身近でアクセスしやすい環境が重視されている傾向がうかがえる（問 13）。

これらの結果から、日常生活の中で気軽に立ち寄れる場所や、無理なく参加できる機会を活かしながら、人と人とのつながりが生まれる仕組みを整えていくことが重要であると考えられる。

Ⅴ 提 言

地域の活性化を実現するためには、20 代から 40 代の働く世代が、無理なく学びに参加し、その成果を地域に還元できる仕組みづくりが重要である。意識調査からは、働く世代の学習意欲は一定程度高い一方で、「忙しさ」や「きっかけの不足」により学びや地域活動につながっていない実態が明らかになった。

このため、仕事や生活動線の中に学びを位置付け、働く世代にとって身近で立ち寄りやすい場を活用した学習機会を充実させる必要がある。また、学びを地域や社会で生かす場を意図的に用意し、対面での交流を基盤としながらオンラインも組み合わせた時間や場所にとらわれず参加できる学習環境の整備が求められる。

さらに、学びと人をつなぐ社会教育人材について、育成を進めるとともに、その活動内容や役割が分かるよう発信を強化し、身近な存在として認識される仕組みを整えることが重要である。参加者が「学ぶ側」から「学びを地域で生かす役割を担う側」へと成長できる循環を生み出すことが不可欠である。

学びの入口となるきっかけづくりと情報提供の充実を図り、人と人との緩やかなつながりを通じて、働く世代自身が地域づくりの主体となる社会を目指すべきである。

柱１　生涯学習・社会教育の学びの環境づくり

20 代から 40 代の人は、仕事や子育てなど多様な役割を担っており、学びに関心があっても時間やきっかけの不足により参加しにくい状況にある。このため、公共施設や商業施設など身近な場所に学びの場を広げるとともに、対面とオンラインを組み合わせた柔軟な学習機会を充実させることが求められる。

また、学びや地域活動への参加を促すためには、SNS やウェブ、口コミなど多様な手段による情報共有に加え、人と人とのつながりや参加者の様子が伝わる情報発信が重要である。身近で参加しやすい学びの場と、多様な情報共有の手段を充実させることで、学びをきっかけとした人と人とのつながりを生み出し、地域への主体的な参画につなげることができる。

（１）いつでも だれでも 学べる場づくり

20代から40代の人は、仕事や子育て、介護など多様な役割を担っており、まとまった時間を確保して学びに参加することが難しい状況にある。このため、「学びの場に出向く」形だけでなく、日常生活の中で利用する場所や、仕事や家庭などで担っている役割の中で無理なく関われる学び方が求められている。具体的には、公共施設だけでなく、商業施設、カフェなど、自分たちが普段利用する場所が学びの入口となることで、参加への心理的ハードルは大きく下がる。また、働く世代は、仕事に必要な知識や技能、資格取得に関する学習への関心が高い一方で、健康やスポーツ、家庭生活、地域課題などに関する学習にも一定の関心を示していることから、多様なニーズに応じた学習機会を提供していくことが重要である。

調査結果では「仕事が忙しく時間がない」「きっかけがつかめない」といった理由により参加に至っていない実態が示されており、決まった日程で継続的に参加しなければならない講座よりも、単発参加や途中参加・再参加が可能な柔軟な形態にする必要がある。このように、参加と離脱を許容しながら関わり続けられる学びの在り方が重要である。さらに、オンライン参加や後日視聴が可能なアーカイブ配信など、時間や場所の制約を受けにくい学習機会を提供するとともに、オンラインで生まれた関心や交流を対面での学びや活動へとつなげていくことで、人と人とのつながりをより深めることができる。

学びの場は、単に参加するだけでなく、企画や運営、講師や協力者など、多様な関わり方ができるものとすることで、より多くの人が自分の状況や関心に応じて関わりやすくなる。こうした柔軟な参加の仕組みを備えた学びの場を身近な場所に広げていくことにより、時間や役割に制約のある働く世代

であっても無理なく関わりやすくなる。また、その中での関わりは人と人とのつながりを生み出し、学びが地域へと広がる契機となる。

（２）多様な情報共有の手段

学びや地域活動に関心があっても、「情報に出会えない」ことで参加に至らないことが多い。自治体広報やチラシだけでなく、SNSやウェブ、口コミなど、複数の手段を使い分けながら情報を受け取っており、情報発信側にはその多様性への対応が求められる。特に、身近な人の体験談や参加者の声といった「実感のある情報」は、参加の大きな動機づけとなる。

また、学びの場については、「立ち寄りやすい雰囲気」や「きっかけづくり」が重視されていることから、学びの内容だけでなく、誰でも参加しやすい環境や関係性が求められていることがうかがえる。そのため、講座情報の発信にとどまらず、活動の背景や成果に加え、人と人とのつながりや参加者の変化が伝わる情報発信も重要である。

さらに、学びたいと思ったときに相談できる窓口やナビゲーターの存在が明確になれば、自分に合った学びを選びやすくなる。多様な媒体と人を介した情報共有により、学びや地域活動に関する情報が身近なものとなり、一人一人が自分に合った学びに参加しやすくなる。

柱２　社会教育人材の養成と育成

20代から40代の働く世代は、学びや地域活動への関心をもちながらも、それらを結び付ける機会や支援に十分出会えていない状況がうかがえる。このため、人と人、人と学び、人と地域活動をつなぐコーディネート人材の養成を進めるとともに、社会教育士をはじめとする社会教育人材が専門性やネットワークを生かして活躍できる環境づくりが重要である。

また、働く世代が学びの受け手にととまらず、企画や運営、地域活動の担い手として多様に参画できる機会を広げることで、当事者意識の醸成や学びの循環が生まれ、新たな人材の育成にもつながることが期待される。

さらに、デジタル活用を支える人材の養成・育成を進めることで、誰もが学びにアクセスしやすい環境を整えるとともに、オンラインと対面それぞれの特性を生かした学びや交流を促進することが重要である。人材がつながり、活躍し、支え合う仕組みを構築することが、働く世代の学びを地域の力へと転換する基盤となる。

（１）学びをコーディネートする人材の養成

仕事や家庭を優先する生活の中で、20代から40代の働く世代は学びや地域活動に関心があっても、どこに行けばよいのか、誰と関わればよいのか分からず、最初の一歩を踏み出せないことが多い。こうした状況では、人と人、人と学び、人と地域活動を結び付けるコーディネート人材の存在が重要である。学習者に寄り添いながら関心や強みを引き出し、適切な学びや活動へとつなぐ人材がいることで、働く世代は安心して学びに参加しやすくなる。

視察事例に見られるように、行政職員、社会教育士、NPOスタッフなどが地域の学びを調整し、関係者をつなぐ役割を果たすことで、参加者主体の活動が生まれている。こうした実践から、学びと地域活動を結び付けるコーディネート人材の重要性がうかがえる。

今後は、社会教育士をはじめとする社会教育人材の養成を進めるとともに、その専門性やネットワークを生かしながら、地域においてコーディネート機能を発揮できる仕組みづくりが求められる。また、多様な主体との連携や対話を促し、人と人とのつながりを生み出す役割を担う人材を継続的に育成していくことも重要である。学習者に寄り添い、学びの選択肢とつながりを生み出す人材の存在が、働く世代の学びを地域の力へとつなげる鍵となる。

（２）学びを支える人材の活用促進

働く世代においては、学びへの関心や地域への関心が一定程度見られる一方で、その学びが地域での活動に十分に結びついていない状況がある。こうした中、学びと地域活動をつなげていくためには、20代から40代の働く世代の人々が「学ぶ側」にとどまらず、企画や運営に「関わる側」、「支える側」としても多様に参画できる環境を整えることが重要である。働く世代が企画や運営に参画できる環境を整えるためには、地域に存在する多様な人材が有する経験や専門性を見える形で把握し、その多様な人材の経験や専門性を生かして活動できる機会を広げていくことが求められる。企業で培った知識や技能、子育てや地域活動で得た経験などは、学びの場や地域づくりの場において貴重な力となり得る。若い世代や意欲のある人が主体的に活躍できる場面や機会をつくり、緩やかなつながりの中から新たな担い手を育んでいくことも重要である。

また、視察先においては、参加者が企画や運営に関わることで当事者意識が高まり、学びが自ら展開していく循環が生まれていた。このことから、役割を小さく設定し、個々の状況に応じて無理なく関われる段階的な参画の仕組みが有効であると考えられる。

さらに、人材を一方的に「活用する」「される」という関係として捉えるのではなく、互いに学び合いながら成長する関係として位置付けることが重要である。働く世代が学びの受け手から担い手へと成長し、それぞれの経験や専門性を地域の中で発揮することにより、継続的な参画や新たな学びの循環が生まれる。こうした学びの循環は、地域の持続性を支える基盤となる。

（３）デジタル活用を支える人材の育成

デジタル化の進展により、オンライン講座やSNS、動画配信などを活用した学びの機会が広がり、時間や場所にとらわれない学習が可能となっている。一方で、総務省「令和６年通信利用動向調査」では、インターネット利用者の約７割が利用時にセキュリティ面など何らかの不安を感じていることが示されており、若年層を含む幅広い年代でデジタル活用への不安が存在している。さらに、令和７年度の総務省「ICTリテラシー実態調査」では、ICTリテラシーの重要性を認識している人は87.8%と割合が高い一方で、自身のICTリテラシーが高いと考えている人は35.2%と限定的であり、活用能力への自信には差が見られることが明らかとなっている。

また、働く世代にとっては、限られた時間の中で効率的に学ぶことが求められることから、移動時間を必要としないオンライン学習や、空き時間を活用した情報取得手段は重要な役割を担っている。一方で、意識調査では対面での学習を希望する割合も一定程度見られ、活動の継続においては対面での交流も重視されていることから、学びを通じた人とのつながりも依然として重要であることがうかがえる。

このため、デジタルと対面それぞれの特性を生かしながら、学びを支えていく人材の養成と育成が求められる。例えば、オンライン講座の受講支援やデジタル機器の活用支援などを行う人材を育成することにより、学習者は自らの状況に応じて学びの機会を選択しやすくなる。また、デジタル機器の操作やオンラインサービスの利用に不安を抱える人に対し、相談対応や個別の支援を行うことで、一人ひとりの状況に応じた学習機会への参加を後押しすることが求められる。さらに、対面の場で相談や交流を支える人材がいることで、オンラインだけでは得られない人とのつながりや学びの継続にもつながる。

こうした人材が地域の様々な場所で存在することにより、誰もがデジタル技術の恩恵を受けながら学びに参加できる環境づくりが進む。デジタル活用を支える人材の養成と育成は、多様な学びの機会を広げるとともに、人と人とのつながりを支えながら地域全体の活力を高める上でも重要である。

柱３　つながりをつくる仕組みづくり

仕事や家庭で多忙な20代から40代の働く世代が地域と継続的に関わるためには、役割や責任に縛られず、自らの関心や都合に応じて参加できる緩やかなつながりを形成していくことが重要である。しかし、インターネットの普及により、時間や場所を問わず学べる環境が広がる一方、学びがオンライン上だけで完結し、人と人とのつながりが生まれにくくなることも懸念される。こうした中、地域に存在する公民館や図書館、交流拠点、商業施設などの既存の地域資源を、人と人が出会い、対話し、学び合える場として活用していくことが求められる。

視察事例では、単発参加や小さな関わりから交流が始まり、利用者自身が場づくりに関わることで、主体的な参加や継続的な関係性が生まれていた。このように、既存の地域資源を生かしながら、人と人との緩やかなつながりを育む環境を整えることは、働く世代の地域参加を促すとともに、オンラインで生まれた関心や交流を対面での活動へと発展させる機会にもなる。こうした関わりの積み重ねは、学びや交流を持続させる基盤となり、地域への愛着や当事者意識を育みながら、地域コミュニティの活性化や地域の活力向上にもつながるものと考えられる。

（１）緩やかなつながりの形成

日常の仕事や家庭生活で忙しい20代から40代の人は、地域活動に継続的に深く関わることよりも、できるときに無理なく参加できる関わり方を求めている。そのため、役割や責任を固定せず、関心やタイミングに応じて参加・離脱ができる緩やかなつながりが重要である。意識調査からも、参加意欲が低いのではなく「きっかけがない」「入口が分かりにくい」ことが障壁となっていることが明らかになっている。

視察事例では、単発参加や見学、手伝いといった小さな関与から始まり、参加者同士の対話や偶然の出会いを通して、関係性が深まっていく様子が見られた。こうした場では、働く世代が「地域の一員として迎え入れられている」という安心感をもちやすく、継続的な関わりへとつながっている。多職種・多世代との交流が自然に生まれるよう、学びや活動の場において、自由に会話や交流ができる時間や空間を設けることで、参加者は役割に縛られず、自分の関心から地域とつながることができる。緩やかなつながりの積み重ねが、働く世代の社会参画を支える基盤となる。

（２）既存の地域資源の利活用

20代から40代の働く世代が地域と関わるためには、気軽に立ち寄ることができ、自然に人と関わることができる場の存在が求められる。意識調査においても、公共施設に加えて、商業施設など日常生活の中で利用する場所が交流しやすいと感じられており、「立ち寄りやすい雰囲気」や「日常的に利用している場所であること」が重視されていることから、身近で入りやすい環境が重要であることがうかがえる。

こうした視点に立つと、地域には公民館や図書館、交流拠点、商業施設のほか、あまり活用されていない場など、多様な地域資源が存在しており、それらを働く世代が無理なく関われる場として活用していくことが重要である。そのためには、単に場所を提供するだけでなく、交流が生まれやすい環境や立ち寄りやすい雰囲気を備えるなど、それぞれの地域資源の特性を生かした活用の工夫が求められる。

視察先では、図書館や交流拠点、まちの空間が、人の出会いや対話を生み出すよう意図的に活用されており、利用者自身が場づくりに関わることで、単なる利用者にとどまらず主体的な関わりが生まれていた。このように、既存の地域資源に人の活動や関係性が重なり合うことで、その場所は学びや交流が生まれる場へと発展していく。

既存の地域資源を柔軟に活用し、人が関わりやすい環境として再編していくことは、働く世代の地域参加を促すとともに、学びやつながりを持続させる基盤となる。地域資源の利活用を通じて人と人とのつながりが育まれることは、地域の活力向上にもつながるものと考えられる。

資　料

1　第 38 期新潟県社会教育委員名簿

（任期：令和６年 10 月 1 日～令和８年 9 月 30 日）

氏　名	主な役職、所属等	備　考
浅野　浩美	開志創造大学大学院　教授	
磯貝　恭子	新潟県公民館連合会理事　糸魚川教育委員会事務局生涯学習課長	
谷口　則子	新潟県公民館連合会監事　小千谷市文化スポーツ課小千谷市公民館長	令和7年4月1日～
伊藤　法生	新潟県中学校長会副会長　長岡市立東中学校長	
玉木　暢	新潟県中学校長会副会長　長岡市立東中学校長	令和7年4月1日～
浮須　崇徳	NPO 法人　ヨリシロ　代表理事	
桐原　宏史	新潟県立新潟西高等学校　校長	
傳田　秀輝	新潟県立巻総合高等学校　校長	令和8年4月24日～
小池　尚子	公募	
小見まいこ	NPO 法人みらいず works　代表理事	副議長
佐竹　直子	蔵王のもりこども園　園長	
鈴木　毅厚	公募	
鈴木麻里子	株式会社新潟テレビ２１　経営戦略部長 兼 総務部長	
松井周之輔	新潟県都市教育長協議会　小千谷市教育委員会教育長	
松田　洋平	新潟県小学校長会理事 村上市立村上小学校長	
山崎　勝之	新潟県小学校長会理事 小千谷市立小千谷小学校長	令和7年4月1日～
宮川　祐一	一般社団法人新潟県子ども会育成連合会理事　副会長	
森澤　真理	株式会社新潟日報社　特別論説編集委員	
山田　智之	上越教育大学大学院　学校教育研究科　教授	議長
若桑　正樹	公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区 新潟ブロック協議会　副会長	
渡辺ひろみ	NPO 法人　村上 ohana ネット　代表理事	

２　審議の経過

第１回 全体会	令和６年 12 月 19 日(木)	○議長・副議長選出 ○審議テーマについて ○審議計画について

令和７年１月　　第１回会議録送付
１～２月　　県内現地視察（つばめ若者会議、愛 南魚沼みらい塾、まち なかキャンパス長岡・三条ベース）
１月 18 日　　県外先進地視察（神奈川県立図書館）
２月 15 日　　県外先進地視察（東京都シブヤ大学）
１～３月　　視察報告の提出
４月　　議長、副議長第２回会議協議
５月　　会議資料作成、送付

第２回 全体会	令和７年 ５月 14 日 （水）	○第１回の会議内容確認 ○現地視察報告 ○審議の骨子と骨子内容

５月　　骨子内容追加意見の集約
６月　　第２回会議録送付 骨子案作成
７月　　第３回会議資料作成、送付

第３回 全体会	令和７年 ８月８日 （金）	○第２回までの審議を踏まえての意見交換及び審議

８月　　第３回会議録送付
９月～10 月　　審議のまとめ（骨子案）　意見照会・集約
令和８年３月　　第４回会議開催日程調整
６月　　第４回会議資料作成送付

第４回 全体会	令和８年 ６月 11 日 （木）	○「審議のまとめ（素案）」の検討

６月　　第４回会議録および「審議のまとめ（案）」送付
７月末　　最終案確認

令和８年９月　　「審議のまとめ」の提出

３　生涯学習に関する働く世代の意識調査【年代別】（n＝回答者数）

問１ あなたは、学習することに興味がありますか。（当てはまるものを１つ選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	興味がある	興味がない
全体		400 100.0	232 58.0	168 42.0
年齢	10代	14 100.0	10 71.4	4 28.6
	20代	60 100.0	28 46.7	32 53.3
	30代	70 100.0	42 60.0	28 40.0
	40代	96 100.0	60 62.5	36 37.5
	50代	109 100.0	62 56.9	47 43.1
	60代	51 100.0	30 58.8	21 41.2

問１で「興味がある」と答えた方がお答えください。
問２ あなたは、この１年くらいの間に、月に１日以上どのようなことを学習しましたか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	仕事に必要な知識・技能や資格に関すること	インターネットの知識・技能に関すること	ボランティア活動に必要な知識・技能に関すること	自然体験や生活体験などの体験活動に関すること	人口減少や地球温暖化などの社会問題に関すること	健康やスポーツに関すること	料理や裁縫などの家庭生活に関すること	育児や教育に関すること	音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること	文学や歴史、語学などの教養に関すること
全体		232 100.0	115 49.6	61 26.3	16 6.9	18 7.8	8 3.4	39 16.8	50 21.6	27 11.6	43 18.5	41 17.7
年齢	10代	10 100.0	6 60.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0
	20代	28 100.0	14 50.0	9 32.1	3 10.7	2 7.1	2 7.1	4 14.3	4 14.3	4 14.3	6 21.4	5 17.9
	30代	42 100.0	22 52.4	13 31.0	4 9.5	8 19.0	2 4.8	6 14.3	12 28.6	11 26.2	6 14.3	10 23.8
	40代	60 100.0	33 55.0	17 28.3	4 6.7	4 6.7	1 1.7	9 15.0	13 21.7	8 13.3	13 21.7	8 13.3
	50代	62 100.0	31 50.0	14 22.6	3 4.8	0 0.0	0 0.0	13 21.0	15 24.2	3 4.8	12 19.4	10 16.1
	60代	30 100.0	9 30.0	5 16.7	1 3.3	3 10.0	0 0.0	4 13.3	5 16.7	1 3.3	4 13.3	6 20.0

上段：回答数 下段：（%）		n	その他	学習していない
全体		232 100.0	7 3.0	37 15.9
年齢	10代	10 100.0	0 0.0	1 10.0
	20代	28 100.0	1 3.6	4 14.3
	30代	42 100.0	2 4.8	4 9.5
	40代	60 100.0	3 5.0	9 15.0
	50代	62 100.0	0 0.0	11 17.7
	60代	30 100.0	1 3.3	8 26.7

問2で「学習はしていない」と答えた以外の方がお答えください。
問3 学習した成果をどのように生かしていると思いますか。あるいは生かせると思いますか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：(%)		n	仕事や就職の上で生かしている、または生かせる	地域や社会での活動に生かしている、または生かせる	家庭・日常の生活に生かしている、または生かせる	健康の維持・増進に役立っている、または役立てられる	自分の人生を豊かにしている、または豊かにできる	その他	生かしていない、または生かせない
全体		195 100.0	107 54.9	28 14.4	89 45.6	37 19.0	64 32.8	1 0.5	11 5.6
年齢	10代	9 100.0	5 55.6	3 33.3	4 44.4	3 33.3	3 33.3	0 0.0	1 11.1
	20代	24 100.0	14 58.3	3 12.5	9 37.5	2 8.3	4 16.7	0 0.0	4 16.7
	30代	38 100.0	23 60.5	5 13.2	21 55.3	7 18.4	12 31.6	0 0.0	2 5.3
	40代	51 100.0	28 54.9	11 21.6	18 35.3	7 13.7	20 39.2	1 2.0	3 5.9
	50代	51 100.0	27 52.9	5 9.8	27 52.9	13 25.5	16 31.4	0 0.0	1 2.0
	60代	22 100.0	10 45.5	1 4.5	10 45.5	5 22.7	9 40.9	0 0.0	0 0.0

問3で「7 生かしていない、または生かせない」と答えた方がお答えください。

問4 あなたが学習したことを生かしていない、または生かせない理由は何ですか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	知識や技術が十分身に付いていないから	忙しくて時間がないから	時間帯が希望に合わないから	一緒に活動する仲間がいないから	生かす場がないから	費用がかかるから	職場や家庭、地域などから評価されないから	生かすために必要な情報が入手できないから	その他
全体		11 100.0	9 81.8	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0
年齢	10代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
	30代	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50代	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問2で「学習していない」と答えた方がお答えください。
問5 あなたが学習していない理由は何ですか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	仕事が忙しくて時間がない	家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	学習より優先したいことがある	時間帯が希望に合わない	一緒に学習する仲間がいない	身近なところに学習する場がない	学習するための費用がかかる	学習したい内容の講座が開設されていない	学習するのに必要なプログラムや費用などの情報が入手できない
全体		37 100.0	17 45.9	6 16.2	6 16.2	3 8.1	2 5.4	5 13.5	9 24.3	3 8.1	3 8.1
年齢	10代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	4 100.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	30代	4 100.0	2 50.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	9 100.0	5 55.6	2 22.2	0 0.0	1 11.1	1 11.1	2 22.2	2 22.2	1 11.1	1 11.1
	50代	11 100.0	5 45.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 27.3	0 0.0	0 0.0
	60代	8 100.0	2 25.0	0 0.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0

上段：回答数 下段：（%）		n	学習しても職場などから評価されない	学習するのに必要なプログラムや費用などの情報が入手できない	きっかけがつかめない	その他	特に必要がない
全体		37 100.0	0 0.0	3 8.1	20 54.1	1 2.7	2 5.4
年齢	10代	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	0 0.0	0 0.0	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0
	30代	0 0.0	0 0.0	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	40代	0 0.0	1 11.1	9 100.0	6 66.7	1 11.1	0 0.0
	50代	0 0.0	0 0.0	11 100.0	6 54.5	0 0.0	1 9.1
	60代	0 0.0	2 25.0	8 100.0	5 62.5	0 0.0	0 0.0

問6 あなたが、これから学習するとした場合、どのようなことを学習したいですか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	仕事に必要な知識・技能や資格に関すること	インターネットの知識・技能に関すること	ボランティア活動に必要な知識・技能に関すること	自然体験や生活体験などの体験活動に関すること	人口減少や地球温暖化などの社会問題に関すること	健康やスポーツに関すること	料理や裁縫などの家庭生活に関すること	育児や教育に関すること
全体		400 100.0	171 42.8	111 27.8	30 7.5	40 10.0	28 7.0	88 22.0	91 22.8	36 9.0
年齢	10代	14 100.0	4 28.6	3 21.4	1 7.1	4 28.6	2 14.3	3 21.4	0 0.0	0 0.0
	20代	60 100.0	24 40.0	11 18.3	5 8.3	1 1.7	3 5.0	6 10.0	8 13.3	0 0.0
	30代	70 100.0	34 48.6	17 24.3	4 5.7	10 14.3	8 11.4	14 20.0	19 27.1	17 24.3
	40代	96 100.0	50 52.1	33 34.4	12 12.5	15 15.6	8 8.3	21 21.9	28 29.2	13 13.5
	50代	109 100.0	50 45.9	34 31.2	6 5.5	5 4.6	2 1.8	34 31.2	29 26.6	5 4.6
	60代	51 100.0	9 17.6	13 25.5	2 3.9	5 9.8	5 9.8	10 19.6	7 13.7	1 2.0

上段：回答数 下段：（%）		n	音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること	文学や歴史、語学などの教養に関すること	その他	学習したいとは思わない
全体		400 100.0	63 15.8	64 16.0	15 3.8	82 20.5
年齢	10代	14 100.0	2 14.3	5 35.7	0 0.0	2 14.3
	20代	60 100.0	7 11.7	4 6.7	2 3.3	23 38.3
	30代	70 100.0	11 15.7	13 18.6	2 2.9	12 17.1
	40代	96 100.0	16 16.7	20 20.8	5 5.2	13 13.5
	50代	109 100.0	15 13.8	14 12.8	5 4.6	18 16.5
	60代	51 100.0	12 23.5	8 15.7	1 2.0	14 27.5

問６で「学習したいとは思わない」と答えた以外の方がお答えください。
問７ あなたは、これから学習するとした場合、どのような場所や形態で学習したいと思いますか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	公民館や生涯学習センターなど公的な機関の講座や教室	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間事業者の講座や教室、通信教育（有料）	高等学校、大学、大学院、短大、専門学校などの学校の講座や教室	職場の教育、研修	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	図書館、博物館、美術館	テレビやラジオ	インターネット（無料）	書籍や雑誌など	その他
全体		318 100.0	81 25.5	64 20.1	30 9.4	45 14.2	47 14.8	79 24.8	59 18.6	201 63.2	104 32.7	9 2.8
年齢	10代	12 100.0	1 8.3	0 0.0	2 16.7	1 8.3	3 25.0	5 41.7	2 16.7	6 50.0	3 25.0	0 0.0
	20代	37 100.0	7 18.9	5 13.5	7 18.9	4 10.8	4 10.8	10 27.0	6 16.2	20 54.1	9 24.3	1 2.7
	30代	58 100.0	11 19.0	12 20.7	6 10.3	6 10.3	10 17.2	18 31.0	12 20.7	31 53.4	11 19.0	3 5.2
	40代	83 100.0	26 31.3	24 28.9	7 8.4	14 16.9	11 13.3	19 22.9	12 14.5	56 67.5	35 42.2	2 2.4
	50代	91 100.0	25 27.5	17 18.7	2 2.2	18 19.8	13 14.3	19 20.9	21 23.1	63 69.2	34 37.4	2 2.2
	60代	37 100.0	11 29.7	6 16.2	6 16.2	2 5.4	6 16.2	8 21.6	6 16.2	25 67.6	12 32.4	1 2.7

問８ その場所で学習したい理由は何ですか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	自宅や職場から近く、通いやすいから	駐車場や公共交通機関などアクセスがよいから	静かで落ち着いているから	Wi-Fi等必要な設備が整っているから	専門的な知識をもつ人がいたり、資料があったりするから	同好者が集まっている場所だから	慣れた場所だから	出かけなくてもよいから	その他
全体		318 100.0	85 26.7	53 16.7	70 22.0	69 21.7	86 27.0	34 10.7	40 12.6	129 40.6	11 3.5
年齢	10代	12 100.0	3 25.0	1 8.3	6 50.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	3 25.0	4 33.3	0 0.0
	20代	37 100.0	11 29.7	8 21.6	9 24.3	6 16.2	11 29.7	3 8.1	4 10.8	9 24.3	0 0.0
	30代	58 100.0	15 25.9	14 24.1	11 19.0	9 15.5	19 32.8	9 15.5	8 13.8	19 32.8	2 3.4
	40代	83 100.0	26 31.3	15 18.1	15 18.1	13 15.7	24 28.9	7 8.4	11 13.3	38 45.8	5 6.0
	50代	91 100.0	23 25.3	10 11.0	19 20.9	30 33.0	20 22.0	10 11.0	8 8.8	43 47.3	3 3.3
	60代	37 100.0	7 18.9	5 13.5	10 27.0	9 24.3	11 29.7	5 13.5	6 16.2	16 43.2	1 2.7

問9 あなたが学習するとしたら、どの形態で学習したいですか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	対面（指導者と学習者が直接会う）での学習	オンライン（Web会議）での学習	オンライン（仮想空間）での学習	オンライン（ネット上の動画）での学習	インターネット（アプリ使用）での学習	通信（郵便、メール、テレビ、ラジオ等）での学習	書籍（紙やデジタル等）での学習
全体		400 100.0	148 37.0	67 16.8	27 6.8	113 28.3	137 34.3	66 16.5	146 36.5
年齢	10代	14 100.0	5 35.7	0 0.0	1 7.1	4 28.6	7 50.0	1 7.1	5 35.7
	20代	60 100.0	18 30.0	17 28.3	7 11.7	13 21.7	14 23.3	8 13.3	21 35.0
	30代	70 100.0	33 47.1	16 22.9	4 5.7	19 27.1	21 30.0	13 18.6	24 34.3
	40代	96 100.0	32 33.3	15 15.6	11 11.5	26 27.1	36 37.5	19 19.8	40 41.7
	50代	109 100.0	41 37.6	15 13.8	3 2.8	36 33.0	43 39.4	21 19.3	38 34.9
	60代	51 100.0	19 37.3	4 7.8	1 2.0	15 29.4	16 31.4	4 7.8	18 35.3

上段：回答数 下段：（%）		n	地域の環境保全に関する活動	国際交流に関する活動	防犯・防災活動	その他	地域や社会での活動に参加したいとは思わない
全体		400 100.0	43 10.8	10 2.5	45 11.3	2 0.5	157 39.3
年齢	10代	14 100.0	0 0.0	1 7.1	1 7.1	0 0.0	5 35.7
	20代	60 100.0	4 6.7	1 1.7	3 5.0	0 0.0	32 53.3
	30代	70 100.0	3 4.3	0 0.0	7 10.0	0 0.0	26 37.1
	40代	96 100.0	11 11.5	4 4.2	9 9.4	1 1.0	35 36.5
	50代	109 100.0	17 15.6	3 2.8	19 17.4	0 0.0	39 35.8
	60代	51 100.0	8 15.7	1 2.0	6 11.8	1 2.0	20 39.2

問 10 あなたは、この 1 年間に地域や社会でどのような活動に参加しましたか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	学校の環境整備や教育活動の支援などの地域が学校と協働する活動	地域の子どものためのレクリエーション活動や自然体験活動など	子育て・育児を支援する活動	地元の観光や産業の活性化に貢献するような活動	地域の伝統行事や歴史の継承に関する活動	スポーツ・文化活動	障害者や高齢者、外国人住民などの支援に関する活動	地域の環境保全に関する活動
全体		400 100.0	33 8.3	31 7.8	23 5.8	19 4.8	26 6.5	25 6.3	12 3.0	27 6.8
年齢	10 代	14 100.0	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	20 代	60 100.0	3 5.0	3 5.0	1 1.7	4 6.7	4 6.7	2 3.3	1 1.7	3 5.0
	30 代	70 100.0	10 14.3	6 8.6	11 15.7	2 2.9	2 2.9	5 7.1	1 1.4	1 1.4
	40 代	96 100.0	9 9.4	16 16.7	5 5.2	4 4.2	7 7.3	8 8.3	1 1.0	1 1.0
	50 代	109 100.0	8 7.3	4 3.7	4 3.7	8 7.3	10 9.2	8 7.3	6 5.5	17 15.6
	60 代	51 100.0	2 3.9	1 2.0	1 2.0	0 0.0	2 3.9	2 3.9	2 3.9	5 9.8

上段：回答数 下段：（%）		n	国際交流に関する活動	防犯・防災活動	その他	地域や社会での活動に参加していない
全体		400 100.0	5 1.3	22 5.5	3 0.8	238 59.5
年齢	10 代	14 100.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	8 57.1
	20 代	60 100.0	1 1.7	0 0.0	0 0.0	46 76.7
	30 代	70 100.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0	41 58.6
	40 代	96 100.0	4 4.2	8 8.3	3 3.1	52 54.2
	50 代	109 100.0	0 0.0	8 7.3	0 0.0	56 51.4
	60 代	51 100.0	0 0.0	4 7.8	0 0.0	35 68.6

問 11 あなたは地域や社会で行われる活動の情報を、どのような方法で入手していますか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	ホームページ	SNS（X、Instagram、LINE など）	メールマガジン	自治体の広報紙やチラシ	民間の広報誌や新聞	回覧	口コミ	テレビやラジオ	その他	情報は入手していない
全体		400 100.0	111 27.8	112 28.0	18 4.5	136 34.0	63 15.8	97 24.3	45 11.3	59 14.8	2 0.5	98 24.5
年齢	10 代	14 100.0	5 35.7	6 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	5 35.7
	20 代	60 100.0	6 10.0	13 21.7	1 1.7	8 13.3	5 8.3	6 10.0	2 3.3	5 8.3	1 1.7	29 48.3
	30 代	70 100.0	24 34.3	22 31.4	3 4.3	19 27.1	10 14.3	13 18.6	6 8.6	13 18.6	0 0.0	21 30.0
	40 代	96 100.0	34 35.4	37 38.5	5 5.2	38 39.6	16 16.7	22 22.9	11 11.5	15 15.6	1 1.0	13 13.5
	50 代	109 100.0	27 24.8	24 22.0	8 7.3	48 44.0	25 22.9	38 34.9	17 15.6	18 16.5	0 0.0	20 18.3
	60 代	51 100.0	15 29.4	10 19.6	1 2.0	23 45.1	7 13.7	18 35.3	7 13.7	8 15.7	0 0.0	10 19.6

問 12 働き盛りの世代や子育て世代（20 代～40 代）の大人が対面で交流しやすい場所やスペースはどこにあるとよいですか。（最大３つまで選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	学校内の一室	公共施設（公民館、図書館、コミュニティセンター	会社内	商店街内	地域の集会所や自治会館内	駅やバスターミナル内	公園や屋外スペース内	商業施設（ショッピングセンター、カフェ、書店など）内	その他	適したスペースはない
全体		400 100.0	37 9.3	196 49.0	43 10.8	34 8.5	67 16.8	33 8.3	58 14.5	138 34.5	2 0.5	82 20.5
年齢	10 代	14 100.0	2 14.3	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	2 14.3	1 7.1	0 0.0	6 42.9
	20 代	60 100.0	5 8.3	17 28.3	10 16.7	4 6.7	8 13.3	8 13.3	8 13.3	11 18.3	0 0.0	24 40.0
	30 代	70 100.0	9 12.9	38 54.3	5 7.1	5 7.1	7 10.0	7 10.0	16 22.9	25 35.7	0 0.0	10 14.3
	40 代	96 100.0	13 13.5	56 58.3	11 11.5	9 9.4	17 17.7	9 9.4	11 11.5	48 50.0	1 1.0	13 13.5
	50 代	109 100.0	8 7.3	51 46.8	13 11.9	10 9.2	28 25.7	7 6.4	16 14.7	39 35.8	0 0.0	20 18.3
	60 代	51 100.0	0 0.0	31 60.8	4 7.8	5 9.8	7 13.7	1 2.0	5 9.8	14 27.5	1 2.0	9 17.6

問 12 で「10 適したスペースはない」を選択した以外の方がお答えください。
問 13 問 12 でその場所が交流しやすいと考えた理由を教えてください。（最大３つまで選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	どこにでもあるから	交通の便がいいから	立ち寄りやすい雰囲気があるから	学びや交流の雰囲気があるから	Wi-Fi などのデジタル設備が整っているから	誰でも利用しやすいから（バリアフリー、ユニバーサルデザインなど）	費用がかからないから	その他
全体		318	116	73	176	49	35	69	62	5
		100.0	36.5	23.0	55.3	15.4	11.0	21.7	19.5	1.6
年齢	10 代	8	2	3	1	1	2	3	1	0
		100.0	25.0	37.5	12.5	12.5	25.0	37.5	12.5	0.0
	20 代	36	14	8	16	9	8	5	3	0
		100.0	38.9	22.2	44.4	25.0	22.2	13.9	8.3	0.0
	30 代	60	26	19	33	9	3	8	5	0
		100.0	43.3	31.7	55.0	15.0	5.0	13.3	8.3	0.0
	40 代	83	33	24	48	10	6	18	16	3
		100.0	39.8	28.9	57.8	12.0	7.2	21.7	19.3	3.6
	50 代	89	29	17	53	14	13	23	26	2
		100.0	32.6	19.1	59.6	15.7	14.6	25.8	29.2	2.2
	60 代	42	12	2	25	6	3	12	11	0
		100.0	28.6	4.8	59.5	14.3	7.1	28.6	26.2	0.0

問 14 働き盛りの世代や子育て世代（20 代～40 代）の大人が地域の活動に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（最大３つまで選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	情報提供	きっかけ作り（講座やイベントなど）	人材	場所の整備	社会的な評価	安心感	資金	その他	特にない
全体		400	169	231	54	87	24	102	85	5	62
		100.0	42.3	57.8	13.5	21.8	6.0	25.5	21.3	1.3	15.5
年齢	10 代	14	5	8	3	1	2	2	2	0	3
		100.0	35.7	57.1	21.4	7.1	14.3	14.3	14.3	0.0	21.4
	20 代	60	13	19	4	9	4	13	9	0	22
		100.0	21.7	31.7	6.7	15.0	6.7	21.7	15.0	0.0	36.7
	30 代	70	27	47	9	18	1	17	15	0	9
		100.0	38.6	67.1	12.9	25.7	1.4	24.3	21.4	0.0	12.9
	40 代	96	49	61	16	22	4	20	23	3	12
		100.0	51.0	63.5	16.7	22.9	4.2	20.8	24.0	3.1	12.5
	50 代	109	53	65	12	27	11	32	26	2	10
		100.0	48.6	59.6	11.0	24.8	10.1	29.4	23.9	1.8	9.2
	60 代	51	22	31	10	10	2	18	10	0	6
		100.0	43.1	60.8	19.6	19.6	3.9	35.3	19.6	0.0	11.8

問 15 働き盛りの世代や子育て世代（20 代～40 代）の大人が活動を続けていくために必要なことは何だと思いますか。（最大３つまで選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	対面での交流	中心となる人材（リーダー）	定期的なイベント	SNS（LINE、Facebook、X などコミュニケーションツール）を使った情報交換	オンライン（仮想空間）での交流	資金	地域の役に立つ活動であること	その他	特にない
全体		400 100.0	89 22.3	138 34.5	132 33.0	114 28.5	25 6.3	123 30.8	53 13.3	5 1.3	67 16.8
年齢	10 代	14 100.0	3 21.4	5 35.7	1 7.1	4 28.6	2 14.3	2 14.3	1 7.1	0 0.0	4 28.6
	20 代	60 100.0	11 18.3	10 16.7	12 20.0	16 26.7	4 6.7	9 15.0	4 6.7	0 0.0	22 36.7
	30 代	70 100.0	22 31.4	16 22.9	17 24.3	18 25.7	4 5.7	25 35.7	7 10.0	0 0.0	10 14.3
	40 代	96 100.0	20 20.8	34 35.4	36 37.5	27 28.1	8 8.3	39 40.6	11 11.5	1 1.0	12 12.5
	50 代	109 100.0	19 17.4	46 42.2	48 44.0	37 33.9	5 4.6	33 30.3	21 19.3	3 2.8	13 11.9
	60 代	51 100.0	14 27.5	27 52.9	18 35.3	12 23.5	2 3.9	15 29.4	9 17.6	1 2.0	6 11.8

問 16 あなたは「社会教育士」という名称を知っていましたか。（当てはまるものを１つ選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	内容も含めて知っていた	名前だけ聞いたことがある	知らなかった
全体		400 100.0	22 5.5	28 7.0	350 87.5
年齢	10 代	14 100.0	2 14.3	3 21.4	9 64.3
	20 代	60 100.0	7 11.7	5 8.3	48 80.0
	30 代	70 100.0	6 8.6	5 7.1	59 84.3
	40 代	96 100.0	3 3.1	6 6.3	87 90.6
	50 代	109 100.0	3 2.8	6 5.5	100 91.7
	60 代	51 100.0	1 2.0	3 5.9	47 92.2

問 16 で「1 内容も含めて知っている」「2 名前だけ聞いたことがある」を選択した方がお答えください。

問 17 あなたは「社会教育士」について、どこで知りましたか。（当てはまるものをすべて選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	広報紙やチラシ	国など行政機関のホームページ	公民館、図書館などの施設の掲示物	SNS（LINE、Instagram、Xなど）	友人、知人、家族などからの情報	講座やイベントでの情報	その他	覚えていない
全体		50 100.0	14 28.0	11 22.0	10 20.0	7 14.0	11 22.0	2 4.0	1 2.0	6 12.0
年齢	10代	5 100.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	12 100.0	2 16.7	1 8.3	6 50.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	30代	11 100.0	8 72.7	3 27.3	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0
	40代	9 100.0	2 22.2	4 44.4	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	1 11.1	2 22.2
	50代	9 100.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	3 33.3	0 0.0	0 0.0	3 33.3
	60代	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0

問 18 あなたは、社会教育士と一緒に地域の課題を解決するとした場合、どのような課題を解決したいと思いますか。（当てはまるものすべてを選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	地域コミュニティの活性化	子ども・若者の育成支援	高齢者支援、介護予防	防災・減災対策	環境保全、循環型社会づくり	伝統文化活動の推進	スポーツ活動の推進	多文化共生、外国人住民の支援
全体		400 100.0	156 39.0	152 38.0	81 20.3	93 23.3	50 12.5	41 10.3	41 10.3	17 4.3
年齢	10代	14 100.0	3 21.4	5 35.7	2 14.3	2 14.3	4 28.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1
	20代	60 100.0	15 25.0	18 30.0	4 6.7	12 20.0	6 10.0	5 8.3	5 8.3	5 8.3
	30代	70 100.0	29 41.4	37 52.9	10 14.3	17 24.3	8 11.4	3 4.3	7 10.0	1 1.4
	40代	96 100.0	45 46.9	43 44.8	19 19.8	28 29.2	10 10.4	15 15.6	12 12.5	6 6.3
	50代	109 100.0	45 41.3	35 32.1	30 27.5	25 22.9	12 11.0	14 12.8	15 13.8	2 1.8
	60代	51 100.0	19 37.3	14 27.5	16 31.4	9 17.6	10 19.6	3 5.9	1 2.0	2 3.9

上段：回答数 下段：（%）		n	健康づくり、生活習慣の改善	障害のある人の支援	商店街の活性化	その他
全体		400 100.0	96 24.0	36 9.0	75 18.8	12 3.0
年齢	10代	14 100.0	4 28.6	0 0.0	3 21.4	0 0.0
	20代	60 100.0	8 13.3	7 11.7	18 30.0	1 1.7
	30代	70 100.0	13 18.6	5 7.1	8 11.4	2 2.9
	40代	96 100.0	23 24.0	9 9.4	26 27.1	3 3.1
	50代	109 100.0	32 29.4	12 11.0	9 8.3	5 4.6
	60代	51 100.0	16 31.4	3 5.9	11 21.6	1 2.0

問19 あなたは、生涯にわたって行う学習をより盛んにしていくために、県はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（最大３つまで選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	公民館、学校施設の開放などの学習のための施設の増加	学習を支援する人の充実	インターネットを利用したオンライン学習の充実	学習に関するプログラムや費用などの情報提供の充実	国民のニーズを反映した学習プログラムの提供	学習履歴などを記録し、身に付けた成果を客観的に証明できる仕組みの構築	学習した成果が企業などに適切に評価されるような仕組みづくりの促進	労働時間の短縮や学習するための休暇制度などの充実
全体		400 100.0	104 26.0	91 22.8	92 23.0	75 18.8	35 8.8	27 6.8	57 14.3	83 20.8
年齢	10代	14 100.0	1 7.1	2 14.3	2 14.3	6 42.9	2 14.3	1 7.1	1 7.1	2 14.3
	20代	60 100.0	11 18.3	5 8.3	12 20.0	9 15.0	4 6.7	4 6.7	6 10.0	11 18.3
	30代	70 100.0	14 20.0	14 20.0	18 25.7	12 17.1	5 7.1	2 2.9	9 12.9	18 25.7
	40代	96 100.0	28 29.2	25 26.0	25 26.0	17 17.7	8 8.3	5 5.2	21 21.9	25 26.0
	50代	109 100.0	34 31.2	27 24.8	29 26.6	25 22.9	9 8.3	8 7.3	14 12.8	24 22.0
	60代	51 100.0	16 31.4	18 35.3	6 11.8	6 11.8	7 13.7	7 13.7	6 11.8	3 5.9

上段：回答数 下段：（%）		n	民間事業者が提供する学習の質の保証	仕事に必要な知識・技能の習得や資格取得に対する経済的な支援	その他	特にない
全体		400 100.0	24 6.0	94 23.5	3 0.8	65 16.3
年齢	10代	14 100.0	1 7.1	2 14.3	0 0.0	4 28.6
	20代	60 100.0	3 5.0	9 15.0	0 0.0	18 30.0
	30代	70 100.0	2 2.9	10 14.3	0 0.0	12 17.1
	40代	96 100.0	7 7.3	27 28.1	3 3.1	11 11.5
	50代	109 100.0	7 6.4	36 33.0	0 0.0	13 11.9
	60代	51 100.0	4 7.8	10 19.6	0 0.0	7 13.7

問 20 あなたのお仕事についてうかがいます。あなたは、この中のどれに当たりますか。どれに当てはまるかわからない場合には、「8」を選択し、「その他」の欄にできるだけ具体的にお書きください。（当てはまるもの１つを選択。当てはまるものが複数ある場合は、主なもの１つを選択。）

上段：回答数 下段：（%）		n	役員を含む、正規の職員・従業員	期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員	自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業	家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者	主婦・主夫	学生	無職	その他
全体		400 100.0	203 50.8	87 21.8	26 6.5	10 2.5	29 7.3	15 3.8	25 6.3	5 1.3
年齢	10代	14 100.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0	1 7.1	0 0.0	10 71.4	1 7.1	0 0.0
	20代	60 100.0	24 40.0	13 21.7	5 8.3	2 3.3	1 1.7	4 6.7	10 16.7	1 1.7
	30代	70 100.0	45 64.3	9 12.9	2 2.9	1 1.4	9 12.9	1 1.4	2 2.9	1 1.4
	40代	96 100.0	57 59.4	22 22.9	7 7.3	2 2.1	3 3.1	0 0.0	5 5.2	0 0.0
	50代	109 100.0	60 55.0	26 23.9	7 6.4	3 2.8	8 7.3	0 0.0	3 2.8	2 1.8
	60代	51 100.0	17 33.3	15 29.4	5 9.8	1 2.0	8 15.7	0 0.0	4 7.8	1 2.0

問 21 あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。この中からいらっしゃるお子さんをすべてお答えください。どれに当てはまるかわからない場合には、「7」を選択し、「その他」の欄にできるだけ具体的にお書きください。（当てはまるものすべてを選択）

上段：回答数 下段：（%）		n	乳幼児	小学生	中学生	高校生、高専生	大学生、大学院生、短大生、専門学校生	社会人、主婦、主夫など学校教育を修了した方	その他	子どもはいない
全体		400 100.0	43 10.8	55 13.8	36 9.0	45 11.3	42 10.5	115 28.8	2 0.5	147 36.8
年齢	10代	14 100.0	1 7.1	1 7.1	1 7.1	3 21.4	1 7.1	1 7.1	0 0.0	6 42.9
	20代	60 100.0	7 11.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.3	0 0.0	0 0.0	51 85.0
	30代	70 100.0	28 40.0	20 28.6	9 12.9	5 7.1	1 1.4	1 1.4	0 0.0	24 34.3
	40代	96 100.0	7 7.3	26 27.1	18 18.8	21 21.9	15 15.6	16 16.7	1 1.0	31 32.3
	50代	109 100.0	0 0.0	7 6.4	8 7.3	15 13.8	18 16.5	58 53.2	0 0.0	26 23.9
	60代	51 100.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	5 9.8	39 76.5	1 2.0	9 17.6

性別

上段：回答数 下段：（%）		n	男性	女性
全体		400 100.0	204 51.0	196 49.0
年齢	10代	14 100.0	7 50.0	7 50.0
	20代	60 100.0	32 53.3	28 46.7
	30代	70 100.0	36 51.4	34 48.6
	40代	96 100.0	49 51.0	47 49.0
	50代	109 100.0	55 50.5	54 49.5
	60代	51 100.0	25 49.0	26 51.0

年齢

上段：回答数 下段：(%)		n	10代	20代	30代	40代	50代	60代
全体		400 100.0	14 3.5	60 15.0	70 17.5	96 24.0	109 27.3	51 12.8
年齢	10代	14 100.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	60 100.0	0 0.0	60 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30代	70 100.0	0 0.0	0 0.0	70 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	96 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	96 100.0	0 0.0	0 0.0
	50代	109 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	109 100.0	0 0.0
	60代	51 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	51 100.0

住所

上段：回答数 下段：(%)		n	村上市	関川村	粟島浦村	胎内市	新発田市	聖籠町	新潟市	阿賀野市	五泉市	阿賀町
全体		400 100.0	11 2.8	1 0.3	0 0.0	3 0.8	10 2.5	1 0.3	179 44.8	8 2.0	9 2.3	1 0.3
年齢	10代	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	7 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	60 100.0	3 5.0	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25 41.7	0 0.0	2 3.3	0 0.0
	30代	70 100.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	1 1.4	2 2.9	0 0.0	38 54.3	2 2.9	0 0.0	0 0.0
	40代	96 100.0	2 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 6.3	0 0.0	43 44.8	3 3.1	3 3.1	1 1.0
	50代	109 100.0	4 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	48 44.0	1 0.9	2 1.8	0 0.0
	60代	51 100.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	2 3.9	0 0.0	1 2.0	18 35.3	2 3.9	2 3.9	0 0.0

上段：回答数 下段：(%)		n	弥彦村	燕市	三条市	加茂市	田上町	見附市	長岡市	出雲崎町	小千谷市	魚沼市
全体		400 100.0	0 0.0	22 5.5	18 4.5	3 0.8	2 0.5	5 1.3	43 10.8	0 0.0	3 0.8	2 0.5
年齢	10代	14 100.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	60 100.0	0 0.0	3 5.0	2 3.3	0 0.0	0 0.0	2 3.3	10 16.7	0 0.0	0 0.0	1 1.7
	30代	70 100.0	0 0.0	4 5.7	3 4.3	1 1.4	0 0.0	0 0.0	6 8.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4
	40代	96 100.0	0 0.0	5 5.2	7 7.3	2 2.1	1 1.0	2 2.1	10 10.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50代	109 100.0	0 0.0	5 4.6	4 3.7	0 0.0	0 0.0	1 0.9	9 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代	51 100.0	0 0.0	3 5.9	2 3.9	0 0.0	1 2.0	0 0.0	7 13.7	0 0.0	3 5.9	0 0.0

上段：回答数 下段：(%)		n	南魚沼市	湯沢町	十日町市	津南町	柏崎市	刈羽村	上越市	妙高市	糸魚川市	佐渡市
全体		400 100.0	4 1.0	3 0.8	5 1.3	0 0.0	12 3.0	2 0.5	26 6.5	6 1.5	8 2.0	13 3.3
年齢	10代	14 100.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	60 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.7	1 1.7	1 1.7	8 13.3
	30代	70 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4 5.7	0 0.0	3 4.3	1 1.4	0 0.0	2 2.9
	40代	96 100.0	1 1.0	0 0.0	2 2.1	0 0.0	1 1.0	0 0.0	2 2.1	3 3.1	2 2.1	0 0.0
	50代	109 100.0	1 0.9	1 0.9	1 0.9	0 0.0	5 4.6	2 1.8	17 15.6	1 0.9	4 3.7	2 1.8
	60代	51 100.0	2 3.9	0 0.0	1 2.0	0 0.0	2 3.9	0 0.0	2 3.9	0 0.0	1 2.0	1 2.0